

7/24 中日 (県中)

企業の森づくり 徳倉建設が参加

27日、県と協定

企業が社会活動の一環で自主的に県有林を整備する県の「企業の森づくり」事業に、総合建設業徳倉建設(名古屋市中区)が参加することになった。二十七日に、県と協定を結ぶ。同事業への参加企業は六社目となる。

同社は今後二年間、瀬戸市白岩町にある「ノキの人工林一・五畝」で、間伐や下草刈りなどを進める。県はこの事業で県有林三千畝を開放の対象としており、今回で企業の活動区域は計二四・五畝となった。

徳倉建設が 6社目の協定

愛知県「企業の森づくり」

愛知県が県有林を提供して進めている「企業の森づくり」に、徳倉建設が参加する。27日に県と同社が協定を結ぶ。協定締結は、徳倉建設で6社目となる。活動期間は3年間で更新可能。同社では今後、森林環境調査、環境美化活動、除伐や間伐、下草刈りなどの保育を行う。

企業の森づくりは、企業の社会貢献活動のフィールドとして、県が所有する県内約3000畝の県有林を対象に提供されるもの。これまでに三菱電機名古屋製作所、アイカ工業などが協定を締結している。

7/24 中部経済 (50)

徳倉建設では、「次世代への配慮」をモットーに、社員が一丸となって地球環境への負荷を軽減するため、環境保全活動を進めている。今回の協定締結では、瀬戸市白岩町地内のヒノキ人工林1・5畝を対象に、森林環境調査や森林整備を行う。この活動を通じて、社員が地球環境への影響を再認識し、環境保全に対する意識を継続的に改善していくのが目的だ。

愛知県と 徳倉建設 瀬戸で森づくりへ

愛知県は23日、社会貢献として県有林で森林整備活動を行う、企業と県が結ぶ「企業の森づくり」協定をゼネコン(総合建設業者)の徳倉建設(名古屋市中区、徳倉正晴社長)と27日に結ぶと発表した。活動区域は瀬戸市白岩町の1・5畝で、樹齢14年の若いヒノキ人工林があるところ。これで同協定の締結は6社目となる。

具体的な活動としては、社員や関連会社の社員とその家族のボランティアによる植生調査や照度調査、ごみ拾いなどの環境美化などがあげられている。8月中旬には人工林の込み具合や植生調査、危険箇所調査を行い、9月上旬にはこの調査結果をもとに森林整備プランを策定する。11月には除間伐を行う。

協定の期間は27日から3年間で、その後も更新可能。来月中旬以降、同社や関連会社の社員、その家族らのボランティアで植生や照度などの森林環境調査を行い、環境への影響を認識

し、社員の環境保全に対する意識の継続的改善に努める」という。県は県有林約3千畝を対象に、企業の森づくり事業を行う企業を07年6月から募集している。これまでに三菱電機名古屋製作所とアイカ工業、フルハシEPO、アイシン精機、武蔵精密工業が協定を結んでいる。

建設通信 (50) 7/24

愛知県有林を保育・整備

土木系の公共工事や建築工事などを展開する総合建設業の徳倉建設(徳倉正晴社長)。品質ISO、環境ISOも取得し、名古屋からエゴ事業所の認定も受けている。さまざまな新技術によって、環境負荷を軽減する生活環境づくり、そして持続的な豊かさ



社員有志が企業の森づくり活動に参加

創業は昭和22年で、もともと港を造る仕事や航路を掘る仕事など、海洋土木を多く手掛けてきた。近年は橋梁(きょうりょう)なども含めた道路工事が主要事業となっている。建築ではマンション建設が多いが、今はオフィスビルや工場などの建設工事にも力を入れていく意向。また、事業は国内にとどまらず、70年代の南米を皮切りに中米、東南アジア、アフリカと海外へ活躍を拡げているという。

「地域に愛される企業」となることも大きな目標だ。そのためのキーワードの一つが「環境」。平成20年4月、社内に環境研究会を設置。約10人のメンバーで、社会貢献を視野に入れた環境について勉強を始めた。その中で、県有林を企業が保育する「企業の森づくり」を知り、社内協議を経て平成21年7月、協定を愛知県と締結した。建築業で

「企業の森づくり」は第一号だ。活動区域は瀬戸市日石町の県有林1.5。同社や関連会社の社員、その家族らのボランティアで、5月9日の日曜日には、企業の森を利用したイベントを開催する予定。環境研



地域をサポート

徳倉建設

会社メモ
 本社=名古屋市中区錦3の13の5
 電話=052・961・3271
 URL=http://www.tokura.co.jp/

会社プロフィール
 昭和22年、宝土建株式会社を設立し、土木建築請負業を開始。昭和24年、徳倉建設株式会社に商号変更。道路工事や河川・ダム工事などを手掛ける土木部門、集合住宅や商業施設、医療施設などを手掛ける建築部門、海外建設を手掛ける国際事業部からなる。



瀬戸市白岩町の県有林で森林調査を実施

森林環境調査、環境美化活動、森林保育活動などを展開している。具体的には昨年8月と11月、12月に毎木分調査、下枝打ち、清掃、今年1月に下枝打ちと清掃、3月には散策路整備準備などを行った。参加者は毎回10人から14人ほど。「達成感を味わい、五感が癒やされた」「一緒に作業した同僚に、より親近感が生まれた」といった感想の声が上がっているとのことだ。

研究会では、企業の森づくりでの活動を環境教育の場としてもとらえて、社員とその家族の環境に対する意識高揚に役立てる考えだ。そこでこのイベントでは、森林環境の専門家による講話も予定している。もちろんそれだけではなく、みんなに枝打ちや丸木構作製などの作業や懇談会などに参加してもらい、家族で楽しめる内容も考えているという。

各支店が地元で 農業支える環境保全



葛西用水路での清掃ボランティア

今後もこの活動が農業関係者や地元住民の意識高揚につながるよう、関係者が活動に気軽に参加できる雰囲気づくりにも努めていきたいという。

「農業の有する、食料を安定的に供給する機能および多面的機能を十分に発揮させるため、水と土、地域環境などの資源保全活動などを通じて、美しい田園の創造、都市と農村の共生、国土の保全、地域社会の健全な発展に寄与すること」を目的とした活動だという。具体的には、例えば一宮市および稲沢市でNPO法

活動は平成19年6月から現在まで10回を数え、徳倉建設社員のほか、協力業者、葛西用水路土地改良区の職員ら延べ100人以上が参加。昨年3月には関東農政局から表彰も受け、それを記念した植樹を行った。



葛西用水路のボランティア活動に参加した東京支店の面々

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2010年(平成22年)5月11日(火曜日) (第三種郵便物認可)

徳倉建設 企業の森で野外教室

愛知県県有林事務所と「企業の森づくり」協定を結んでいる徳倉建設は9日、愛知県瀬戸市白岩町地内の企業の森で第1回「徳倉・森の教室」を開いた。当日は、同社社員や児童らが参加するなか、豊田市森林課の北岡明彦氏が「森のしくみと楽しみ」と題し講話を行うとともに、枝打ち、丸木橋の作製、伐木、コースター作りなどの作業を通じ、森の仕組みと役割を学んだ。

北岡氏は、「森を守ることは、私たちの豊かな生活を守ることに通じているということを知ってほしい」とあいさつ。その後、森を散策しながら、児童らに樹木の名前や特徴を説明しながら、木に名札を付けてもらった。



同社は「次世代への配慮」をモットーに、社員が一丸となって地球環境負荷を低減する環境保全活動を進めるため、2009年7月27日に県と協定を締結。「徳倉・森の会」を設け、人工林整備、環境美化、自然体験学習といった森林整備活動を始めた。活動面積は1.5㌥、活動期間は3カ年。